＜令和元年度研究発表会開催概要＞

日　時:令和元年 11 月 21 日(木)
場　所:ホテルアウィーナ大阪
発表校:大阪市立東生野中学校
テーマ:時空を超えて　～命の尊さ・親孝行・平和～の追及

【重点を置いた活動】
『命』の尊さを、仲間とともに『絆』を感じ、『継』＝繋がる唯一無二の修学旅行

(実施要領)
・旅 行 先　鹿児島・宮崎方面
・時　　期　令和元(2019)年 5 月 14 日(火)～16 日(木)
・実施学年　第 3 学年　93 名

・日程概要
1 日目:新大阪⇒川内(薩摩川内市)入村式・ファーム体験、スティ
2 日目:知覧特攻平和会館⇒鹿児島市内散策⇒宮崎・ANA ホリデイ・インリゾート宮崎(泊)
3 日目:マリンスポーツ体験(雨天時:表札づくり)⇒新八代⇒博多⇒新大阪⇒学校

時空を超えて
～命の尊さ・親孝行・平和～の追及

校長　川田　浩二
3年生学年主任　加賀山　曜子

大阪府　大阪市立東生野中学校

●学校紹介

昭和22年4月大阪市立生野第四中学校として創立された本校は、70年を超える歴史と伝統のある学校である。特にラグビー部が有名で、半世紀以上絶えることなく活動し、これまで数多くの高校日本代表、トップリーガーを輩出している。

学校は、大阪市生野区の北東部に位置し、11（支援3）学級の比較的規模の小さい学校で、商店街や今里新地、家内工場が多く点在する東中川地域と、中小の工場が密集する小路地域からなり、ともに在日韓国・朝鮮人が多く住んでいる。現在、25名の外国籍生徒が在籍し、その多くは在日韓国・朝鮮人生徒である。

また、本校には夜間学級が設置されていて、平均年齢68歳の中学生が昼間の中学生と同じ学校内の敷地で勉強しており、1年生を中心に交流を図っている。このことは、昼間の生徒にとって勉強に対する思い、姿勢、これからの人間として生きていく上での情操感情の醸成に大変効果のあるものと考えている。

校舎外観

School Data

【創立年】昭和22（1947）年4月1日
【教育目標】
・人権尊重の教育を基盤とし、確かな学力に基づいた、自ら考え行動できる生徒を育成する。
・違いを違いと認め合う個性尊重の集団を育てる。
【全校生徒数】271名
【教職員数】34名

実施要項

●旅 行 先　鹿児島・宮崎方面
●時　　期　令和元(2019)年5月14日(火)～16日(木)
●実施学年　第3学年93名
●日程概要

【1日目】
新大阪→川内(薩摩川内市)入村式・ファーム体験、ステイ
【2日目】
知覧特攻平和会館・平和学習→鹿児島市内散策→宮崎
ANAホリデイ・インリゾート宮崎(泊)
【3日目】
マリンスポーツ体験(雨天時：表札づくり)→新八代→博多→新大阪→学校

はじめに

東生野中学校71期生は、『命・絆・継』をテーマに総合的な学習を行い、修学旅行でその成果を発揮できるように計画を立てた。1年生では、特に〝命＝自分自身や仲間を思いやる心〟、2年生では、〝絆＝違いを認め合う集団作り〟、として校外学習やキャリア教育を行った。

これらの取り組みの成果を発表する場を文化祭とし、1年生では〝生きる〟を、2年生では〝大切なものは形のないもの〟というテーマで学年全体発表を行った。さまざまな国籍やルーツをもつ生徒の多い本校では、国際理解教育・多文化共生教育にも重点をおいて取り組んでいるため、相手の気持ちになって考える心が育まれる。

また毎日、自分の思いや考えを表現できるように、連絡帳に日記を書かせている。各教科においても、協働的な学びを取り入れ、班学習など学び支えあう習慣が身につくよう指導した。このような学習の成果を〝継＝継承〟できるように、3年生では知り得たことを表現し伝えていけるよう、分析して発表することに挑戦させている。調べたことを授業や学年、全校生徒の前でプレゼンテーションを行わせ、また毎週の学年集会で自分の考えや思いをまとめて発表できるよう、生徒自らが話し、思いを伝える機会を増やした。鹿児島・宮崎という場所で、日頃の成果が試された。

●重点を置いた活動

『命』の尊さを、仲間とともに『絆』を感じ、『継』＝繋がる唯一無二の修学旅行

目的地の選定にあたって

本校では、九州方面を修学旅行地とし、具体的な行き先については毎年各学年で選定した。学年の目的地選定の軸は、〝唯一無二の体験学習〟とし、①大阪では簡単に体験できない場所、②その土地の人とふれあえる場所、③命の尊さを考えられる場所と考え、九州新幹線を利用できる鹿児島県を目的地として選定した。また、宮崎市観光協会が行なっている、教育旅行で宮崎市へ宿泊・体験を行った団体に対しての補助金制度を活用し、2つ目の行き先を宮崎県とした。

事前学習

2年生の冬休みの宿題として、鹿児島県について各自で調べさせ、修学旅行で行う鹿児島市内天文館付近散策のための地図作成を行わせた。3年生では、調べた情報や地図をもとに市内散策ルート決めを行った。

2年生3学期の校外学習は、班単位で大阪市内を地下鉄でまわったが、修学旅行集合地の新大阪駅をチェックポイントとし確認させた。また、自宅から新大阪駅に行き、写真を撮って学校へ送信するという宿題を3年生の春休みに課した。

民泊地　入村式

知覧特攻隊の学習は、2年生の2学期からスタートさせた。映画「俺は、君のためにこそ死ににいく」（原作　石原慎太郎）の映画を鑑賞させ、この当時の日本の状況と、特攻隊がなぜ命を投げ捨て敵艦に突っ込んだのかを考えさせた。映画に登場する富屋食堂の〝鳥濱トメ〟さんは、特攻隊員を見送るお母さん的存在で〝特攻の母〟と呼ばれた。戦後も、基地を訪れる特攻隊員の遺族のために旅館を開業し、知覧町長に再三働きかけ、特攻平和観音堂を建立し、その観音参りをライフワークとした人物で、そこに隣接して建つのが知覧特攻平和会館となる。〝鳥濱トメ〟さんの生涯を通じ、特攻隊がなぜ死なければならなかったのかを再び考えさせた。生徒が感じた思いを表現するために、千羽鶴を学年全体で作成させた。

活動内容

（1）人間は　自然の中で　生きている

1日目、新大阪駅に各自で集合し、山陽新幹線

から九州新幹線に乗り換えて薩摩川内駅に到着。その後すぐ民泊の入村式が始まった。川内・東郷・樋脇地区に分かれて、ぶどうの袋つけ、オクラ・ナス・稲・ひまわりの植え付け、エンドウ豆やタケノコの収穫、郷土菓子煎粉餅作りなど、各家庭で工夫をこらした農作業体験が始まった。農作業の合間、お茶の時間では伝統のあくまきやアイスをいただき、なにげない薩摩弁のイントネーションに包まれ、生徒たちの緊張もやわらぐほっこりする時間が流れた。日々の感想として、しおりに歌を詠わせた。初日の歌の一部である。

・すばらしい　ほたると笑顔　あたたかい
・サツマイモ　食べるおごじょは　皆綺麗
・お母さん　やさしさ身にね　しみるんだ
・お父さん　怖い顔して　優しすぎ

(2) つらいのに　笑顔あふれる　特攻隊

2日目、朝8時。3地区から戻ってきた生徒たちは、それぞれ地区ごとに離村式を行ったあと、知覧特攻平和会館へと出発。到着前に、鳥濱トメさんの富屋食堂をバスの車窓から見学した。知覧特攻平和会館到着後すぐに講話会場へ。語り部さんは、かつて特攻隊員が飛び立つときに手を振って見送っていた地元の女学生だった方の息子さんである。講話中は終始張り詰めた空気が流れ、瞬く間に時間が過ぎた。語り部さんは、特攻隊員を見送ってきた母親の話を聞いて、特攻隊員がもし今君たちの目の前に現れたなら、

〝命の尊さ…命を粗末にしないでくれ、俺たちの分まで生きてくれ〟

〝親孝行…お父さんお母さんを大切にしてくれ、泣かすようなことをしないでくれ〟

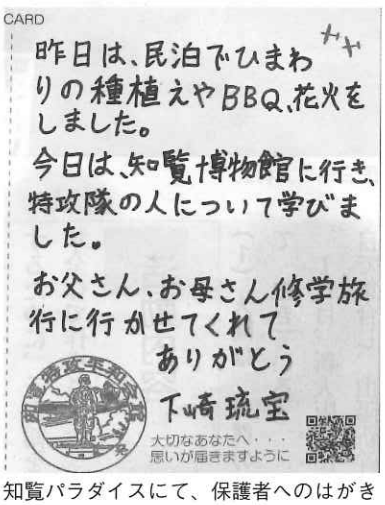
〝平和…二度とこんな悲惨な戦争をしないでくれ、させないでくれ〟

ということを伝えたいだろう、と締めくくられた。語り部さんに千羽鶴を贈呈した代表生徒のお礼の言葉である。

「特攻隊の方々の思いや考えを学習し、私たちの思いをこめて（千羽鶴を）折りました。私たちが特攻隊の方々のことを忘れず、戦争の悲惨さを主体的に知り、またそれを周りの人や後輩に伝えていくことが必要だと思い、〝繋がる〟という文字を書きました。」

知覧特攻平和会館内　千羽鶴贈呈

館内に展示されているのは多くの遺影、遺品、遺書。遺影は、覚悟を決めた凛とした眼差しか、大切な人がその遺影を見たときに悲しみが薄れるよう笑顔の写真ばかりだった。生徒が班で館内を見学している時に、語り部さんがわざわざ入り口にいる引率教員のところへ来られ、「今日は、大阪からよくお越しくださいました。本当に真剣に聞いていただいて、しっかり勉強されてきたんですね。素晴らしい中学生です。ありがとうございます。」と、まるで特攻隊員が話されたのかと錯覚に陥るほど、優しい笑顔で感想を伝えに来てくださった。見学後、昼食を食べ終えた生徒から、用意していたハガキに保護者へその時の思いを書かせ、知覧から投函した。そのハガキの内容の一部である。


CARD
昨日は、民泊でひまわりの種植えやBBQ、花火をしました。
今日は、知覧博物館に行き、特攻隊の人について学びました。
お父さん、お母さん修学旅行に行かせてくれてありがとう
下崎琉宝
大切なあなたへ・・・
思いが届きますように
知覧パラダイスにて、保護者へのはがき

・今日は、知覧特攻平和会館に行ったよ。建物に入った瞬間、ちょっと鳥肌がたったよ。特攻隊員の人が家族にむけて書いた手紙を見たら、心がすごく痛くなったよ。今、生きていることに感謝して、時間を大切に生きて行きたいと感じた1日だったよ。また帰ったらいっぱい話すね。

・今、修学旅行2日目で昼ご飯を食べ終わりました。昼ご飯は鹿児島名物鶏飯です。昼ごはんの前に、知覧特攻平和会館にいきま

した。そこで、命が大切だということを今まで以上に思いました。ぼくを産んでくれてありがとうございます。

知覧特攻平和会館を出て、鹿児島市の城山展望台へ。西郷隆盛像付近でバスを降り、天文館付近で班単位での散策を行なった。飲食、お土産購入はすべて自由で、中には鹿児島の有名ラーメン屋に入る班もあった。〝自分たちで立てた計画通りであれば、どこへ行ってもよい、お小遣いの範囲で購入すること〟。だからこそ、班でのコミュニケーションや協力が必要である。最後のチェックポイントが白熊アイスで有名な、〝むじゃき〟。あっという間に時はすぎ、集合地の天文館公園には滑り込む班もあったが全員無事に時間通りに集合し、宮崎へむけて出発。2日目の宿泊場所である「ANAホリデイ・イン宮崎」に到着した。ホテルの目の前は海というロケーションに生徒たちは大喜びだったが、じっくり見る間もなく夕食を終えるとすぐにレクリエーションの時間。大変盛り上がる締めくくりとなった2日目の「今日の歌」である。

鹿児島散策班　お土産・食べ歩き中

知覧特攻平和会館内　ゼロ戦と“繋がる”千羽鶴

・命とは　じぶんだけの　ものじゃない
・歩いたら　町の特色　見えてきた
・2日目は　レクレーション　楽しいな　レク係さん　感謝します

(3) 1年に　1回あるかの　強風だ

3日目はマリン体験を予定していたが、1年に1回あるかの強風のためマリン体験が中止となり、貝殻で表札づくりを行った。旅行会社の方の素早い対応で、「せっかくなので…」と、全員で海辺を散歩し学年の集合写真を撮影した。帰路は新幹線を乗り継ぎ、予定通り学校へ到着、全行程を無事に終えられたことは何よりの成功であった。3日目の「今日の歌」である。

・いつかまた　入ってみたいな　南国の海
・表札で　みんなの個性が　あらわれた
・三日間　時間がたつのが早すぎて　あっという間に　終わってしまった

事後学習

民泊地へお礼の手紙を書いた。そして、しおりに書かせていた知覧特攻平和会館でのワークシートの全員の感想をまとめ、道徳通信として生徒に返した。秋の3年生の文化祭では学年全体での発表を行うが、そのテーマは〝過去・未来への繋がり〟。発表する劇中には、特攻隊員の生きた時代にも触れ、特攻隊の実態についても実際に学んだことを自分たちで意見を出しあって表現する予定である。

おわりに

時空をこえ、特攻隊員の気持ちに迫ることができた。有り難い平和の世に生まれ、自由に生きる喜びに気づいた生徒の感想は、一様に〝感謝〟であった。今では考えられない悲惨な戦争の中、特攻作戦に向かう人の心は、〝大切な人を思い、守る〟という今と変わらない普遍の愛だった。そして、仲間とともに、鹿児島や宮崎の人々との心のつながり、自然の偉大さに感動したこと、このようなことは修学旅行でしかできない唯一の体験であった。

最後に、知覧特攻平和会館に関するワークシートの感想である。

・一度消えたら二度と戻らない命、自分の命、家族の命などをもっと大切にして生きていきます。
・自分と家族の命を大切にするのが一番いい生き方ということが、今日この一日を大切に生きることだと思いました。
・この出来事をいろんな人に伝えて、今を生きることの大切さを忘れない。